



## 2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年2月10日

上場会社名 株式会社 永谷園ホールディングス 上場取引所 東  
 コード番号 2899 URL <https://www.nagatanien-hd.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 永谷 泰次郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部経理財務部長 (氏名) 江口 輝 TEL 03-3432-2511  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月13日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	82,809	14.8	4,913	△1.5	5,101	△14.3	3,262	△7.4
2022年3月期第3四半期	72,115	—	4,986	—	5,949	—	3,522	—

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 7,457百万円 (52.3%) 2022年3月期第3四半期 4,896百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	185.59	—
2022年3月期第3四半期	200.39	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を前第1四半期連結会計期間の期首より適用しており、2022年3月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	99,681	42,327	39.8
2022年3月期	91,859	35,689	36.6

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 39,693百万円 2022年3月期 33,657百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	15.50	—	15.50	31.00
2023年3月期	—	15.50	—	—	—
2023年3月期（予想）	—	—	—	15.50	31.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	100,400	5.2	5,200	7.9	5,000	△17.4	2,900	△15.7	164.99

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー社 （社名） 、除外 ー社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、(添付資料) 8 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	19,138,703株	2022年3月期	19,138,703株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	1,562,319株	2022年3月期	1,561,938株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	17,576,578株	2022年3月期3Q	17,576,953株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

なお、業績予想に関する事項は、(添付資料) 3 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8
(セグメント情報) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた取り組み等により、ウィズコロナを前提とした経済社会活動の正常化が進む中、各種政策の効果もあり、緩やかな回復の動きが続いております。しかしながら、原材料価格の高騰、ウクライナ情勢の長期化、急激な円相場の変動等、景気は依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような経営環境の下、当社グループは、「企業戦略の充実」と「新価値提案力の更なるアップ」を経営課題として企業活動を行ってまいりました。また、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中においては、従業員の健康と安全の確保を最優先とした上で、食品メーカーの使命として社会的責任を果たすべく、商品の安定的な生産・供給体制の維持に尽力してまいりました。国内食料品事業では内食需要の高まりがやや落ち着いたものの、海外食料品事業では、家庭用商品における需要の高まりにより業績は堅調に推移いたしました。また、中食その他事業では、日本への入国制限の緩和や観光支援策等を背景に来店客数が増加したことに加えて、各種の販売促進施策を実施したことにより業績は回復基調で推移いたしました。なお、新型コロナウイルス感染症の影響については軽微であります。この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高82,809百万円（前年同期比14.8%増）となりました。利益面については、営業利益4,913百万円（同1.5%減）、経常利益5,101百万円（同14.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益3,262百万円（同7.4%減）となりました。

以下、セグメントの状況は次のとおりであります。

#### ①国内食料品事業

永谷園では、販売促進施策として、対象商品を購入後、ポイントを集めてお好きなコースに応募すると抽選で300名様に景品が当たる「それいけ！アンパンマン」スマイルキャンペーンの実施や、「煮込みラーメン」では、“子どもが喜ぶ鍋”という価値を訴求するために、スーパーマーケット等の店頭にて「家族みんなが笑顔になる鍋」というタイトルの動画を放映いたしました。また、「めざまし茶づけ」施策の一環として、忙しい時でもすぐに食べられる「お茶づけ」に興味をもってもらえるよう、全国47都道府県の小学校で「朝ごはんの大切さ」を学ぶ授業を実施し、朝が苦手なお子様にも“朝ごはんを楽しみながら食べてもらう”きっかけをつくることで需要の喚起を図ってまいりました。

以上の結果、国内食料品事業の売上高は42,566百万円（前年同期比0.0%増）となりました。

#### ②海外食料品事業

Chaucerグループでは、フリーズドライ商品の売上拡大の為に、顧客ニーズに合わせた新商品の研究開発及び拡販、既存商品の品質向上及び拡販に取り組んでまいりました。特に、米国市場においては、健康食品向け等の新たな市場の拡大を進めてまいりました。欧州市場においては、グローバル企業への売上拡大に努めてまいりました。アジア市場においては、中国における販路の開拓及び当社グループの販売チャネルを活かして日本市場への売上拡大を進めてまいりました。

また、MAIN ON FOODSグループでは、米国市場において、麺商品及び粉商品のサプライヤーとして多数の外食企業、食品メーカー及び小売業との着実な取引拡大を進めてまいりました。研究開発においては、健康意識の高まりによる多様な消費者ニーズに応えるため、機能性食品等の高付加価値商品や個食のミールキットタイプの新商品の開発にも努めてまいりました。

以上の結果、海外食料品事業の売上高は30,795百万円（前年同期比43.2%増）となりました。

③中食その他事業

麦の穂グループでは、新型コロナウイルス感染症への対応について、お客様の安全を図るとともに従業員が安心して働けるよう店舗における感染症予防対策を徹底する等の取り組みを進めてまいりました。このような状況の下、シュークリーム専門店“ピアドパ”では、ハロウィン気分を盛り上げる人気のシュークリーム3種類が入った「ハロウィンパーティーセット」や、月替り限定シュークリームとして味も形もお芋そのものの「焼いもシュー(11月)」を販売すること等により顧客獲得に努めてまいりました。また、生仕立てわらび餅専門店“きなこととろり”では、“炊きあがりから30分以内”のまさに“炊きたて・熱々”の状態でお客様へお届けする「とろりわらび餅 おひとりさま用」の提供を数量限定で開始することで需要の喚起を図ってまいりました。

以上の結果、中食その他事業の売上高は9,298百万円（前年同期比17.1%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期第連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末より7,822百万円増加し、99,681百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が増加したこと等によるものです。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末より1,184百万円増加し、57,354百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が増加したこと等によるものです。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産は主に、利益剰余金が増加したこと等により42,327百万円となりました。この結果、純資産から非支配株主持分を控除した自己資本は、前連結会計年度末より6,036百万円増加の39,693百万円となり、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ3.2ポイント上昇の39.8%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

新型コロナウイルス感染症等の影響により、景気は依然として先行き不透明な状況が続いておりますが、当社グループの第3四半期連結累計期間の業績は、概ね当初計画の範囲内で推移していることから、2022年5月13日発表の業績予想に変更はありません。なお、今後、業績予想の修正が必要であると判断した場合には速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	9,142	7,289
受取手形及び売掛金	16,511	18,745
商品及び製品	6,119	7,814
仕掛品	1,864	2,167
原材料及び貯蔵品	5,566	6,588
その他	1,764	1,604
貸倒引当金	△66	△71
流動資産合計	40,901	44,137
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	19,975	20,819
減価償却累計額	△12,720	△13,116
建物及び構築物 (純額)	7,254	7,702
機械装置及び運搬具	30,925	34,837
減価償却累計額	△20,998	△23,310
機械装置及び運搬具 (純額)	9,926	11,527
土地	11,010	11,061
リース資産	1,788	2,541
減価償却累計額	△886	△916
リース資産 (純額)	902	1,625
建設仮勘定	956	1,513
その他	2,675	2,795
減価償却累計額	△2,177	△2,283
その他 (純額)	497	511
有形固定資産合計	30,548	33,942
無形固定資産		
のれん	8,781	10,076
その他	356	281
無形固定資産合計	9,137	10,358
投資その他の資産		
投資有価証券	7,307	7,406
その他	4,016	3,866
貸倒引当金	△53	△29
投資その他の資産合計	11,271	11,243
固定資産合計	50,957	55,544
資産合計	91,859	99,681

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,896	8,248
電子記録債務	2,220	3,305
短期借入金	7,355	7,410
1年内償還予定の社債	—	5,000
未払法人税等	919	978
賞与引当金	746	407
その他	9,651	9,919
流動負債合計	27,789	35,270
固定負債		
社債	15,000	10,000
長期借入金	9,761	7,580
役員退職慰労引当金	113	132
退職給付に係る負債	244	152
資産除去債務	275	282
その他	2,985	3,936
固定負債合計	28,380	22,083
負債合計	56,169	57,354
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,502	3,502
資本剰余金	3,759	3,759
利益剰余金	30,134	32,836
自己株式	△3,026	△3,027
株主資本合計	34,370	37,071
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,975	2,037
土地再評価差額金	△2,602	△2,602
為替換算調整勘定	△150	3,132
退職給付に係る調整累計額	64	53
その他の包括利益累計額合計	△712	2,621
非支配株主持分	2,032	2,634
純資産合計	35,689	42,327
負債純資産合計	91,859	99,681

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	72,115	82,809
売上原価	49,008	58,555
売上総利益	23,106	24,253
販売費及び一般管理費		
賞与引当金繰入額	217	246
退職給付費用	182	144
給料及び賞与	5,292	5,653
販売促進費	422	587
運賃及び荷造費	3,397	3,419
その他	8,607	9,288
販売費及び一般管理費合計	18,120	19,340
営業利益	4,986	4,913
営業外収益		
受取利息	2	0
受取配当金	155	157
為替差益	—	215
債務免除益	908	—
助成金収入	68	—
その他	162	132
営業外収益合計	1,298	506
営業外費用		
支払利息	161	214
社債発行費	54	—
為替差損	26	—
その他	92	103
営業外費用合計	335	318
経常利益	5,949	5,101
特別利益		
固定資産売却益	1	—
投資有価証券売却益	—	13
在外子会社清算に伴う為替換算調整勘定取崩益	—	43
特別利益合計	1	57
特別損失		
固定資産売却損	5	—
減損損失	6	2
固定資産除却損	40	—
子会社清算損	—	24
事業撤退損	88	23
店舗閉鎖損失	35	1
臨時休業等による損失	9	—
特別損失合計	185	51
税金等調整前四半期純利益	5,765	5,107
法人税等	1,795	1,563
四半期純利益	3,969	3,543
非支配株主に帰属する四半期純利益	447	281
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,522	3,262

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	3,969	3,543
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△316	62
為替換算調整勘定	1,069	3,861
退職給付に係る調整額	174	△10
その他の包括利益合計	927	3,913
四半期包括利益	4,896	7,457
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,312	6,596
非支配株主に係る四半期包括利益	584	860

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（セグメント情報）

I 前第3四半期連結累計期間（自2021年4月1日 至2021年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	国内食料品 事業	海外食料品 事業	中食その他 事業	計				
売上高								
顧客との契約から生 じる収益	42,549	21,507	7,939	71,995	119	72,115	—	72,115
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	42,549	21,507	7,939	71,995	119	72,115	—	72,115
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	—	2	2	74	77	△77	—
計	42,549	21,507	7,941	71,998	194	72,192	△77	72,115
セグメント利益	5,145	833	21	6,000	116	6,116	△1,129	4,986

（注） 1 その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業であります。

2 セグメント利益の調整額△1,129百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,113百万円、セグメント間取引消去△15百万円が含まれております。全社費用は、主に持株会社である当社において発生するグループ管理費用であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な負ののれんの発生益）

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自2022年4月1日 至2022年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	国内食料品 事業	海外食料品 事業	中食その他 事業	計				
売上高								
顧客との契約から生 じる収益	42,566	30,795	9,298	82,661	148	82,809	—	82,809
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	42,566	30,795	9,298	82,661	148	82,809	—	82,809
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	0	0	74	74	△74	—
計	42,566	30,795	9,299	82,661	222	82,884	△74	82,809
セグメント利益	3,557	1,810	551	5,919	125	6,044	△1,131	4,913

(注) 1 その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業であります。

2 セグメント利益の調整額△1,131百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,125百万円、セグメント間取引消去△5百万円が含まれております。全社費用は、主に持株会社である当社において発生するグループ管理費用であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれんの発生益)

該当事項はありません。